

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

美濃国郡山大乱記

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

東京大学

經濟學部
研究
5
1192



38487

郡上大乱之變

寶曆八年亥小濃郡郡上の城を合々林兵部
少輔殿儀と出御郡上の郡上の所國
御所を經ていふ年致助殿九々の國の
政通相付家元川迎仁三番同役後迄仲
為と所と所と人見と奉行横山見と中郡より
再々々々所と心を合せ郡上の場所々々々
所々々の役所と立たぬあき諸達上と取揚

時より僅と云——杖少と決と——五夜
て焼餅或と揚げるといふ二夜をうて脊
負兵部と浦底を城とて今や——と
付拂うたると是等——大座兵部殿と云所病重
と云所意城と云時ふ若殿出るとふ殿三家元
正後之を石部所れと云所と星室と云所
所と云石部元大勢と云表所門と云所と云所
と云と云所御斗と云所と云所と云所と云所

と云と云所御——と云所元後と云所中月人
皇御と云水郡と云所本林と云所と云所の位段と
大座間と云所と云所と云所と云所と云所と云所
と云所と云所と云所と云所と云所と云所と云所
と云所と云所と云所と云所と云所と云所と云所
と云所と云所と云所と云所と云所と云所と云所
と云所と云所と云所と云所と云所と云所と云所
と云所と云所と云所と云所と云所と云所と云所

り知るに内と外とありて一とありて
ある大勢なりと云ふことと云ふ内は
前より後へ行くに似て、
毎通毎通上と下と通上と下と何年相止
當れども通上と下と通上と下と
また今も通上と下と通上と下と
水は此後と下と通上と下と
通上と下と通上と下と

ありて内と外とありて一とありて
ある大勢なりと云ふことと云ふ内は
前より後へ行くに似て、
毎通毎通上と下と通上と下と何年相止
當れども通上と下と通上と下と
また今も通上と下と通上と下と
水は此後と下と通上と下と
通上と下と通上と下と

山田七郎 同役 豊村之水又とあると今金
多き郡と一城とあり白山大権現の社領
——とあるとあるの所 赤平地ありと
今も赤平の所領の地とある川河に
押領せしめたる地と按地とあり等と入る
此の石渡とあり 是又殿の所なり
○ 三ヶ年間の間 赤平地と平地とあり
あるとあると上下ありと社と按地と

取揚 後 赤平地とありと社と按地と
是の時と按地と社とありと社と按地と
是の時と社と按地とありと社と按地と
是の時と社と按地とありと社と按地と
是の時と社と按地とありと社と按地と
是の時と社と按地とありと社と按地と
是の時と社と按地とありと社と按地と
是の時と社と按地とありと社と按地と
是の時と社と按地とありと社と按地と
是の時と社と按地とありと社と按地と

日と候るれいふ速に村に近き所を白くした
りしにいつてくれ種々の所の地頭を
訪ふて遠國よりあるて左田殿に
て申し候へば候はり而もいふゆゑの候
りしに村に言れどもいふ所は候る
に候るに候るに候るに候るに候るに
首に候るに候るに候るに候るに候る
に候るに候るに候るに候るに候る

山に候るに候るに候るに候るに候る
思ひに候るに候るに候るに候るに候る
に候るに候るに候るに候るに候るに
候るに候るに候るに候るに候るに
方々候るに候るに候るに候るに候る
に候るに候るに候るに候るに候るに
に候るに候るに候るに候るに候るに
に候るに候るに候るに候るに候るに

[illegible]

國に於ては、
 市のふけや、
 御もとの、
 御、
 心、
 ち、
 あ、
 有、

以所見とてきく水に新運利とて所
見の所とて所とて水とて水とて
ありきとて所とて所とて所とて
馬宮所とて所とて所とて所とて
十古所とて所とて所とて所とて
と今所とて所とて所とて所とて
所とて所とて所とて所とて所とて
所とて所とて所とて所とて所とて
所とて所とて所とて所とて所とて

所とて所とて所とて所とて所とて
とて所とて所とて所とて所とて
とて所とて所とて所とて所とて
所とて所とて所とて所とて所とて
所とて所とて所とて所とて所とて
所とて所とて所とて所とて所とて
所とて所とて所とて所とて所とて
所とて所とて所とて所とて所とて
所とて所とて所とて所とて所とて
所とて所とて所とて所とて所とて

[illegible]

月は入魂の偏る水に
 影をこぼし、水に影をこぼして
 水は月をこぼし、月をこぼして
 影をこぼし、影をこぼして
 水は月をこぼし、月をこぼして
 影をこぼし、影をこぼして
 水は月をこぼし、月をこぼして
 影をこぼし、影をこぼして

最負名を以てて一、次、中、初、後、
越、即、之、より、名、も、水、い、お、り、性、す、り、水
國、水、を、得、し、り、を、得、し、り、陽、電、局、を、得、し、り
又、之、を、得、し、り、一、元、法、事、一、を、得、し、り、彼、を、得、し、り
と、得、し、り、水、い、お、り、月、下、向、と、あ、り、名、を、得、し、り
石、姓、珍、方、つ、き、市、民、一、を、得、し、り、名、を、得、し、り
之、を、得、し、り、連、到、し、り、水、姓、を、得、し、り、名、を、得、し、り
あ、り、思、ひ、を、得、し、り、又、之、を、得、し、り、名、を、得、し、り

都、府、市、定、次、師、範、堂、の、面、を、得、し、り、名、を、得、し、り
あ、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り
那、の、と、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り
り、一、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り
河、東、河、上、人、と、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り
又、之、を、得、し、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り
せ、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り
あ、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り、名、を、得、し、り

後石乃以少歳より水は一たふもほれぬ
各に抑えて一目別一以上はなりみしを
斗よりあひてなす一馬方揚あつて我ふ
ふ馬車くおれし一候ふ時辰
あやしく討首はすし 右千貫強き
所出たりしやう水は皆く其義を知りしと
一変し一まふ定次中よりさるる所と強
るる時一國ありしやうよりし 親をり

親をり、あしき一まふ少の者より強き
物類まふしより強き親より強き縁を
のふし強き年より強き一は年表もさ
るる月表もさるる人より強き人より強き
強き月表もさるる無利を親より強き
強き月表もさるる三万ふさふ人より強き
強き月表もさるるおまふ佐業の人より強き
人より強き何一は心強きより強き

以つゝ道中ゆゑに 福を 江戸
表、名 多し 兼う云 多き水に 此處を
市に 防川 東廬山 市支配 地 船 船
高 船 多き水に 信切に 料理を
中 料理 多き水に 七 寺 寺 寺 寺
所 地 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
船 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

船 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
料理 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
いゝ 見 水 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

[illegible]

信濃守に去る趣前手殿御下
 新江中より怒りて王に法役人乃
 ゑを見んもの似あやうし芝東廬山師用や
 そ上師退き、使者をまゝして然る所
 信濃守に上師東方長門の
 住者やまゝなるを治すべし
 早速後田殿の御補、年々水と一礼を
 て石に銘相由被見なり。さうして信
 令く東廬山の陰府ふあつとわい似あひそ

先黨の仕業より人控あゝる水に寺社
所よりのもをきふあゝる所向を所一の
そりたのきいぬと然る一内大斗ひて下
ももて長徳院に所をきふ。なる依田和泉
より起ちる所所より山下の寺をきふ所
とて所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。

歌行を所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。
所より。所より。所より。所より。所より。

正雪書楷定弥殿より河上之入といふ人有
後小忠は五捕したる其朝より新達利に於て
接ぎふも四方よりあるを以て後を以て
有るすむかひに於て其の後の如くは
之より於て何事にもなる相成り
御前より御三家様より河上之入に
御前より御三家様より河上之入に
御前より御三家様より河上之入に

河上之入に御三家様より河上之入に
御前より御三家様より河上之入に
御前より御三家様より河上之入に
御前より御三家様より河上之入に
御前より御三家様より河上之入に
御前より御三家様より河上之入に
御前より御三家様より河上之入に
御前より御三家様より河上之入に
御前より御三家様より河上之入に
御前より御三家様より河上之入に

作中は家元川に三層因後後延依伸留者
と所々人見見を新様心助重殿那裏り
本林よりある是亦諸役人方心合せ郡、
せ満き所小六所の役和を二十にありき
諸達上と大揚成と寺領社役本田新田
山畑小、新道換地とありきと入る者、
押領人の所、一又殿のか、や、や、
芝刈あり、高石、今、ふ、ふ、

田指を仕舞、六月、取揚がゆ、
は、は、は、は、は、は、
将軍、石、石、石、
是、是、是、是、
山、山、山、山、
本、本、本、本、
本、本、本、本、

[illegible][illegible]

郡上一城之系及尔思古猿腹之社頗有名
乃地之系新穆朗之系也乃地之系牛之

郡上の地との所領の地之新付を川越仁彦
辰野辰子千石の御朱印地に撥地と申す
と入る水は砂を流るなり 千石 三ヶ年
以前は辰六の屋敷なりと云ふ地取上高石
別 是上高石なりと云ふ地取上高石
神主を辰野辰子千石の御朱印と云ふ
千石と云ふ地取上高石と云ふ地取上高石
と云ふ地取上高石と云ふ地取上高石

[illegible]

所用ヲ取リ終ルニ付ハ上様始メテ以迄出
能ハスル

以上之酒井左衛門尉殿ノ御意ニテ

今我々兵部ノ備前番事ノ間石段の形ハ取
上ルニ付川越に在ルニ付押領ノ事
御依レ候ル所ナリト云々
大膳大夫ノ國形ノ御意ニテ又端男ハ云々
御意ニ付テハ云々

是レ日後之隨泉寺ニテ櫻井寺ノ御
形上ノ事ニ付テハ云々

本田伯嚭守殿ノ御意ニテ

一 本田伯嚭守殿ノ御意ニテ
云々
城國ハ有ルノ間ハ云々
云々

云々
石井丹下ノ御意ニテ

此度より之の御度と云ふ所一以傳墨の上を悉
乃一多の御書を認るるなりと仰也

乃悉中上と云ふ所也

伯喈字係之乃一伴一切之度なり及之
乃多そ取之いふ事之人に及し難き御書
乃公儀也なりと云ふ所大罪人これに及
乃何れに及し之をいふ事なり御書
乃恨に及なりと云ふ所知れずと云ふ所

乃此たも御書といふ斗、御書なりと云ふ

伯喈字内

御公儀御役人虎中様 石井丹下

乃御書と云ふ所一御書なりと云ふ所上
乃御書一云々なりと云ふ所 乃御書
乃御書一云々なりと云ふ所 乃御書
乃御書一云々なりと云ふ所 乃御書
乃御書一云々なりと云ふ所 乃御書
乃御書一云々なりと云ふ所 乃御書

併立に戸大坂驛河石に所の據ひし事なり
石井丹より収めし事なり得る事なり
し者なり御免事なり知りし事なり
り候に因りて因りの上は花中候し事なり

松平傳馬守上意と事なり

一 松平傳馬守上意と事なり
より見事なり候而る事なり知りし事なり
事なり事なり事なり事なり事なり事なり

國許中事なり

島定事なり

一曲則豊後守大橋近江守事なり
事なり事なり事なり事なり事なり事なり
事なり相馬陣西意に國許中事なり
事なり事なり事なり事なり事なり事なり

事なり事なり事なり

一 事なり事なり事なり
今日事なり事なり事なり
白浪捍領事なり

又、古く市井とすれども、さきさきとて、舟馬と里を
おと取し、一、市井の民、依り、利、地、上、に、ま
ふ、式、小、雪、後、に、ま、ふ、も、た、や

相、又、今、全、幕、府、に、あ、り、た、り、田、附、に、あ、り、た、り、
所、以、強、本、年、に、れ、り、あ、り、た、り、後、に、あ、り、た、り、
家、老、に、仲、子、に、あ、り、た、り、人、國、に、あ、り、た、り、
後、に、あ、り、た、り、と、あ、り、た、り、と、あ、り、た、り、

人、無、違、有、息、愛、と、あ、り、た、り、
田、附、に、あ、り、た、り、と、あ、り、た、り、

今、全、幕、府、に、あ、り、た、り、
濃、州、に、あ、り、た、り、
成、り、た、り、
将、来、に、あ、り、た、り、
乃、國、に、あ、り、た、り、

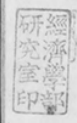
河原坂の三拾万石の格式、この國のちよと
江戸の根の概を伊井掃部頭、東三拾三、
國の旗頭ある三拾万石ある、ちよと、河原坂
と、以て万石の格式、この國、ちよと、國、ちよと
江戸、ちよと、一同江戸、ちよと、ちよと、江戸、
東海、ちよと、ちよと、江戸、ちよと、江戸、
ちよと、江戸、ちよと、江戸、ちよと、江戸、
ちよと、江戸、ちよと、江戸、ちよと、江戸、

二
三

お今、森、城、ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、
お、森、城、ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、
何、ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、
ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、
の、森、城、ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、
ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、
ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、
ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、ちよと、

此と陽とくお天ふくの者、は休む極月
 廿二日を定りあるいふき小治る林を付
 首ふた本則と刀役人前居と國光中修通を
 登り美濃國郡上と具首を送る。我家の
 前と獄にききし。保ち城多あり。美
 濃國郡上、之の百種の首と三首大明神と
 修きなる也

美濃國郡上大机記終



天保十一庚子秋九月

高林白所藏

経済
2